

神性とダビデの王権

2010年5月23日 アシェル・イントレーター

私たちは、イエシュア(イエス)は人であり、神であると信じています。ある時私はローマ1章のイエシュアはダビデの子孫であること(3節)、そして神の御子であること(4節)という個所を黙想していました。その時聖霊が私に、どちらが重要かと尋ねられたように感じました。私は答えました。「神の御子であることです。」すると聖霊は言われました。「違う。」それに対して私は驚き「では、主はダビデの子であることですか。」聖霊は再び「違う。」と答えられたように感じました。私は困惑しました。内からの小さな声が答えられました。「主はその両方一緒である。」

イエシュアが私たちの救いの源となったのは、主は神であり人であるという両方によってです。主は人の形を取った神であり、神の形を取った人です(創世記 1:27)。主は神的な判事であり私たちの罪を裁き、私たちの罪を取り除く身代わりの人です。

昨年、イスラエルのメシアニックジュー指導者の間で、この命題について両面から議論がなされました。ある小グループはイエシュアの神性について否定していましたが、一方で別の小グループは主の人性を否定していました。大半の牧師や指導者は主の両方の側面を持つことについて強く信じています。

新約聖書にはイエシュアがどういうお方であるか、徐々にその理解が進む様子が述べられています。マタイによる福音書ではダビデの王権から始まり、それが進んで黙示録では主の神性に至っています。それには三段階あると私は見えています。

1. イスラエルの王としてのイエシュア - 共観福音書と使徒行伝
2. 教会の頭としてのイエシュア - パウロ書簡
3. YHVHの御使いとしてのイエシュア -ヨハネ書簡

新約聖書はイエシュアの系図のあるマタイ伝から始まります。この章は福音書の出来事とイスラエル王国の聖書的な歴史をつなぐ橋です。そこで強調されているのは、イエシュアはダビデの子であるということです。[注:そういう理由で、主の系図は14世代を一期間として区切られています(17-18節)。ヘブライ語表記には母音がないため、ダビデとつづる場合「DVD」(訳注:ヘブライ語のダレッド、ヴァヴ、ダレッドです)となります。各文字には数字が当てはめられており、D(ダレッド)は4、V(ヴァヴ)は6です。ダビデの名前は4-6-4で合計14となります。14という数字は、イエシュアがダビデの子であることを強調しているのです。]

神はダビデに地上全土の統治を与えました(IIサムエル7章)。もし私たちがイエシュアのダビデの王権という本質を理解しないならば、この地上を私たちが(訳者加:主と共に)支配すること、この世界が神の御国へと大変革すること(黙示録 11:15)、御国がイスラエルに回復すること(使徒 1:6)、

そして文字通りの千年王国の本質を見過ごしてしまうでしょう。そういうわけで、ダビデとのつながりは非常に重要なのです。

イエシュアに関する啓示のそれぞれの段階において、私たちに対する神のご計画の啓示が対応しています。イエシュアのイスラエルの王としての啓示はマタイ 16 章においてシモン(ペテロ)に与えられました。イエシュアはシモンに、この啓示は人間的または自然なものではなく、天的であり超自然的であると伝えました(17 節)。同時にペテロは地上でつないだり、解いたりする場合、天でもそのようになるという霊的権威が与えられました(18-19 節)。シモン・ペテロが持っていた同じ啓示に対する信仰を持つならば、現代の誰であっても同じようになるのです。

教会の頭としてのイエシュアの啓示はエペソ 1 章においてサウロ(パウロ)に与えられました。イエシュアはすべての力と主権を超えて天に上られました(20-21 節)。サウロは、この理解は啓示によって彼に与えられ、私たちが同じ啓示が得られるようにと祈っています(17-18 節)。そのような啓示はこの世において、そして来るべき世において、イエシュアが持つ同じ力と権威を与えてくれるものです。私たちは天において霊的には主とともに座しているのです。(エペソ 2:6-7)。

イエシュアのイスラエルの王としての啓示はシモン(ペテロ)に、教会の頭としての啓示はサウロ(パウロ)に与えられました。しかし、YHVH の御使いとして、そして人の形を取った神の顕れというイエシュアの完全なる啓示はヨハネ(ヨハナン)に与えられました。ヨハネの啓示はイエシュアをモーセの律法とヘブライ預言者とをつなぎます。

1. 主の創造の光とことばである:ヨハネ 1 章と創世記 1 章
2. 主は神の大いなる御使いであり、その指は十戒を書き記した:ヨハネ 8:6 と出エジプト 31:18
3. 主は神-人としてアブラハムの前に現れた:ヨハネ 8:56 と出エジプト 18 章
4. 主は玉座に座す栄光ある王としてイザヤの前に現れた:ヨハネ 12:41 とイザヤ 6 章
5. 主は炎の中の人としてダニエルの前に現れた:黙示録 1:13-15 とダニエル 10:5-6
6. 主はケルビムの上の王座に座す人としてエゼキエルの前に現れた:黙示録 3:21、4:2-7、5:6-8 そしてエゼキエル 1:4-12、26
7. 主は YHVH の軍勢の将としてヨシヤの前に現れた:黙示録 19:11-14 とヨシヤ 5:13-15.

私たちに対する神のご計画の最初の段階は福音書のペテロを通して顕れました。第二段階は使徒書簡のパウロを通して顕れました。最終段階はヨハネを通して顕れました。黙示録は最後の啓示です。(黙示録 1:1)。

黙示録のイエシュアの幻を黙想すると、私たちの内で変化が起こります。主は実際どのようなお方かをつかむことができると、私たちが主にあってどういう存在かをつかむことができます。主の目は燃えさかる炎のようです。主はたくさんの王冠をかぶっておられます。主は白い衣を着て、胸に金の

帯を締め、口から剣が出ているのです。主の髪は羊毛のようでその御顔は太陽のように輝いているのです。

このような絵があなたの中に「入る」時、あなたは変わります。そこには新しい力、熱意、そして純粋さがあります。聖は肉欲と世俗を焼き尽くします。私たちは御国の天的な景観を見ることができます。私たちは主の再臨に対し準備が整います。私たちは裁き、支配し、戦うための新しい能力を身につけます。支配と権威が分与されるのです。

私たちがイエシュアにおいてダビデの王権と神性両方を見ることができますように！神はペテロ、パウロそしてヨハネに啓示された、イエシュアがどういうお方かという理解を与えて下さいますように！そして、私たちは主のように変化しますように。